

平成29年度青森県（青森地域）地域医療構想調整会議  
【議事要旨】

日 時 平成29年10月19日（木）午後5時30分～午後7時  
場 所 ラ・プラス青い森 2階「カメラリア」

(1) 報告事項

①平成28年度病床機能報告の結果

②特定の一月における入院患者に関する調査結果

事務局から①、②について資料1-1、1-2、1-3、資料2に基づいて説明。

○県立中央病院

資料2について、診療報酬の出来高点数の中から薬剤費を除くとしていたものを調査の実施段階で除かないこととした理由は何か。

⇒（事務局）地域医療構想ガイドラインの取扱いに合わせた。

(2) 協議事項

①病院の機能分化・連携の方向性

②地域医療構想の実現に向けた病床の有効活用

③医療療養病床を有する医療機関及び介護療養型医療施設からの転換意向調査

事務局から、①について資料3、②について資料4、③について資料5、参考1に基づいて説明、案件ごとに意見交換を行った。

①病院の機能分化・連携の方向性

○県立中央病院

- ・ 全県を視野に入れた高度急性期医療・専門医療・救急医療を担っていく。
- ・ 現在、病床機能報告の病床機能を全て高度急性期として報告しているが、一部見直しを検討している。

○青森市民病院

- ・ 病床稼働率を踏まえ、病床数の削減を検討している。
- ・ 青森地域の救急医療における当院が果たしている役割は大きいと自負しており、今後も機能充実に努めていく。

○浪岡病院

- ・ 勤務医の減等により病床稼働率が低下しており、手術もほとんどなされていない状況にある。
- ・ 病床稼働率を踏まえ、病床数の削減を検討している。

○平内中央病院

- ・ 徐々にではあるが、急性期から回復期へ病床機能をシフトしている。

- ・病床稼働率は高い水準を維持している。
- ・在宅療養支援病院の届出をしている。

○外ヶ浜中央病院

- ・地域の医療需要が急性期から慢性期に変化しつつあると感じている。
- ・外ヶ浜町では在宅医療の普及が進んでいるとは言えない状況にあり、今後も難しいと感じている。
- ・介護医療院等への転換を視野に入れ、検討している。

**②地域医療構想の実現に向けた病床の有効活用**

○青森市民病院

休床中の病床については病床削減を前提に今、検討している。

○浪岡病院

休床に関しては、今後、返還する見込み。

○青森厚生病院

病床の返還も視野に入れて今後検討していきたい。

**③医療療養病床を有する医療機関及び介護療養型医療施設からの転換意向調査**

○芙蓉会病院

転換については、国の動向を見て検討したい。

○佐藤病院

総合的に検討中。

**(3) 意見交換**

**①在宅医療等の確保の方向性**

**②基金を活用した補助制度**

事務局から①、②について参考2、参考3に基づいて説明、各市町村から参考2のP10について補足説明。

○青森市医師会

・在宅医療を希望する患者が増加すれば、主として、診療所が担当することになる。診療所の医師に過度な負担がかからないようにしなければ、在宅療養支援診療所は増えないと思うので、1つの方法として、公的な医療機関の中に在宅医療の支援病棟、あるいは支援病床を設置し、在宅医療の支援及び多職種のために指導的な役割を担ってもらうことなどを検討していく必要があると思う。

○青森市歯科医師会

・当会は訪問診療を増やすために、会をあげて会員へのレクチャーなどを行っているほか、青森市と協力して要介護度の高い方への無料健診を行っている。  
・青森市歯科医師会事務局が窓口として問い合わせを受け、各歯科診療所に連絡する体制がある。

・今後は県が国保の事務の中心となると思うが、安心して在宅歯科診療を行うためにも、県にはしっかりと対応してもらいたい。

○南黒歯科医師会

当会には訪問診療の機材やレントゲンの機器があり、病院や施設でレントゲンを撮って抜歯することができる。要請があればいつでも対応できるようにしていきたい。

○青森市薬剤師会

・県からの委託で訪問調剤指導のお試し訪問を実施している。  
・訪問調剤指導をしたことがない薬剤師のために、経験のある薬剤師に同行訪問するサポート事業も行っており、成果を期待している。

○看護協会

・訪問看護については、事業所数は多いが1事業所で勤務している職員数が少ない。また、そこで勤務している職員も60歳以上の訪問看護師が多いなど、今後、在宅で看取りまでするとなると訪問看護の担い手が不足している。  
・経営の安定化も課題。

以 上